

# 宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポート①⑦

## 私塾ネット 出前寺子屋 「検定合格講座」

### ◆活動報告その①⑦[2012年4月15日]

東日本大震災以来私にとり20回目となる石巻、この日の天気は晴れ。10カ月前の2011年7月10日、一面識もなかった木伏良明専修大学元教授の伝手だけを頼りに、私は単身石巻に乗りこんだ。その後、月に2回のペースをきっちりと守り、出前寺子屋の活動は今回で17回目となる。毎回、言葉を失う光景を目にし、被災地の復興を願い、学習を支援する活動は10か月が経過していた。なんとかしなければという気持ちの高ぶりから、「復興」という2文字が行動や思考の先頭にたち、被災された方が受けた心の傷への配慮が後方に退いてしまうことが時としてある。17回目の出前寺子屋では、3・11で受けた傷の深さに、松戸・仙台から参加した3人のスタッフは改めて驚かされることとなった。驚きは、ヴォランティアな活動である石巻市消防団に関する2つの出来事で始まった。

今回のスクーリングの3日前に1本のファックスが届いた。出前寺子屋に参加をしているOさんが発信した欠席届であった。スクーリング当日(4月15日)に、「昨年3月11日の津波で行方不明になっていた消防団員であった友人の葬儀が行われることになり、…欠席させて下さいと書かれていた。「家族の方は津波以来(一年以上も)生きて戻るか、…生還を待っていたのですが、周りの説得もあり、このたび葬儀をすることになった」のだそうである。死亡が確認できず、それでも何とか踏ん切りをつけて前へ進もうと苦悶する消防団員の家族と彼の友人にかける言葉を遠方から駆けつける我々は持っていなかった。

さて、この日、松戸を出発したAIM学習セミナーの中村周平講師と私(谷村和枝)は、午前9時57分に仙台駅前バス停で東北大准教授の村山達也氏と合流し、高速バスで石巻へ向かった。時間に余裕があり、我々は遠回りして、女川経由で開成仮設団地に向かうことにした。石巻駅前乗車をしたタクシーの運転手さんは渡波地区消防団の団員もしている方であった。我々が学習支援のボランティアであると知ると、1時間に

及ぶ乗車時間のほとんどを使って、運転手さんは渡波地区での3・11の体験談とその後1か月に及ぶ警備活動を詳細に語ってくれた。運転手さんは「嘘みたいな、夢みたいなことだったけど、朝、目が覚めて、仮設の天井を見ると、本当のことだったと実感する」と最後にポツリと語った。重いなー、深いなー、と感じて私はその言葉に返事ができなかった。



女川町はがれきに占拠されたままだ。国をあげてのがれき処理論争に、いまだ先が見えない。

女川から石巻市に戻り、開成仮設団地内のささえあい拠点センターに到着したのは昼の12時半であった。東北大の村山先生、AIMの中村講師、そして私の3人はスクーリング会場の設営を10分程で完了し、昼食を食べながら本日の予定確認を行った。1時15分になると、本日の最初の受講者がやってきた。

中学校の入学式が終わり、新1年生になったK君である。そのすぐ後で、同様に新中学1年生になったRちゃんとMちゃんが家族とともに会場にやってきて、Cちゃんがお母さんの車で送られて入ってきた。これで英検5級講座受講生の4人が揃った。皆新中学1年生になり、2週間前に会っていた時には感じられなかった大人びた印象を醸し出していた。

定刻の1時30分に授業が始まった。一人ずつ宿題の確認をしていくと、家族のフォローがしっかりとしていることもあり、今回も4人の新中学生は皆完璧に宿題を仕上げていた。松戸の塾ではこう完璧に皆の宿題が仕上がっていることはない。そんなことは皆無に近い。何が違うのだろうか？そんなことを私は考えながら、ラストのリスニング問題を定刻に終わり、5級講座は終了した。漢検の受講者は2時少し前から集まり始め、本日は16名がスクーリングに参加をし、漢字学習に取り掛かっていた。

そして、2時30分に中休みを兼ねたセレモニーが始まった。スタッフ紹介、そして次回の予告と6月2日実施の漢検告知が済み、月に1度の放課後活動フラワー・アレンジメントが開始された。本日の花材は、私の妹から寄せられた献金の1万円を使っていることを皆さんに告げると、

### 出前寺子屋 in 石巻「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日

第Ⅱ期 2012年2月19日～6月9日

#### ①スクーリング(漢検・英検学習)

8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、1月8日、22日、2月4日、2月19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日

#### ②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所

#### ③検定受検

平成24年度第1回漢検2012年6月2日

平成24年度第1回英検2012年6月9日

#### ④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民

#### ⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

「ワー、お花が大きい」という声がか会場であがった。25人分の花材をそろえたのであるが、1万円も使えると皆さんに大輪の花を混ぜることができたのである。自由な花型で、思い思いに花を生け、その後かたづけをして、3時ちょうどに後半の学習が始まった。後半の漢検学習は地元の木伏氏と佐久間氏の協力も加わって、充実した内容で進められた。



母娘4人が仲良く学ぶHさん一家。明るい表情だが被災した女川の自宅は今はない。

漢検受験者は受検級の過去問題を解き、自己採点をして得点を出していった。中村講師が一人一人に点数を尋ねていくと、合格ラインを越えてにっこり微笑む

人、ラインの下で「1か月半あるから、これから頑張ります」と言う人、皆それぞれの反応ではあったが、決意がその顔ににじみ出ていた。一方英検講座は、村山先生が指導する4級受験の授業が3時に始まっていた。いつもの4名の受講者に、途中から漢検天才少年のM君が見学者として参加をした。基礎英語のラジオ講座を欠かさず聴いているM君は、答えが解ると思わず声に出してしまっているようであった。合計で25人の参加者があった英検講座と漢検講座が、共に4時10分に終了し、本日のスクーリングは全て終わりとなった。後片付けにHさんファミリーの4人とOさん御夫妻が自発的に加わっていただいたことも助けとなり、会場は10分足らずできれいに整った。報告書を事務室に提出し、4時30分にスタッフは拠点センターを出た。外はまだ明るかった。本日の英検・漢検講座のスクーリングは無事に終了し、スタッフは少しの疲れと安堵感を感じながら家路についた。次回のスクーリングは4月29日(日)に予定されている。

報告：谷村和枝(AIM学習セミナー)

23年度第2・3回漢字検定合格者40名の内訳  
2級-5名、準2級-12名、3級-12名、4級-4名、5級-3名、  
6級-2名、7級-2名 (小中学生15名、一般25名)

### ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。平成23年10月23日以降平成24年3月4日現在で、16の塾および学校さんから、総額311,438円の献金をいただきました。ありがとうございます。引き続き応援をお願いします。支援金の使途は、検定料、教材費の直接費用と現地移動交通費、通信費、スタッフ昼食費の間接費用にかぎり計上させていただきます。

主催：全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)